

季刊 青春本棚通信 第30号



第10回ビブリオバトル参加者

LINEUP

◆特集 第10回『松山市立中央図書館ビブリオバトル』

大紹介！

◆図書館ってどんなところ？～中央図書館・2階 AVコーナーを利用してみよう！！

◆図書館の自習利用について

◆本好きのコーヒープレイク ～冬と言えば・・・の本～

◆図書館ダンジョン・エクスプローラー ～秘蔵図書探索～

◆図書館投稿のススメ ～青春本棚で投稿を紹介してみよう～

特集『第10回 松山市立中央図書館ビブリオバトル』大紹介！

令和5年10月21日(土曜日)に、『第10回 松山市立中央図書館ビブリオバトル』が開催されました！

今回は、**中学生2名・高校生4名のバトラーたち**が、おすすめ本を紹介した後、『どの本が一番読みたくなったか』を会場に集まった参加者全員で投票して、**チャンプ本**を決定しました。

そして今年は、何と松山市立中央図書館ビブリオバトル開始以来の**W受賞**となりました！！

10回目という節目に相応しい出来事が起こり、職員一同喜んでます。

さあ、出場したバトラーたちの**熱い紹介メッセージ**をお届けします！**皆さんが読んでみたい本はどれですか？**

『未だ青い僕たちは』

(音 はつき//著・スターツ出版)

チャンプ
本

松山市立日浦中学校 3年

高須賀 三菜さん紹介

「ここは自由な世界です。」

同じクラスで、カースト上位の読者モデル、花室野々花とカースト底辺のアニメオタクの原田洋平によってえがかれる青春ストーリーです。

この本の物語の世界は4つ。

読者モデルの世界、学校生活の世界、アニメオタクの世界、そして、SNSの世界。

私が特に興味深い世界は、アニメオタクの世界です。周りの反応を全く気にせず、自分の信念を貫く格好いい原田くんの描写です。そんな原田くんが花室さんに伝えたセリフがあります。「自分で自分のことを信じられないんじゃ、誰も信じてくれないんじゃないの？」今まで、自分のことを信じられなかった私は、この言葉に心を打たれ、誰かに信じてもらえるように自分を信じてみようと思うようになりました。

青春を謳歌している私が選ぶ**最高の青春ストーリー**です。青春真っ只中の人、もう一度、青春を感じたい人。これから青春する人。「青春」という言葉に魅力を感じた人におすすめです。

あなたの心に残る1冊になりますよ～に。



『モモ』

(ミハエル・エンデ//著・岩波書店)

愛媛県立松山西中等教育学校 4年

岡本 琳さん紹介

チャンプ
本

くしを一度も通したことがなさそうなほどくしゃくしゃな髪、上着はボロボロで身の丈に合っていない切れ布をつなげたようなもの、そんな少し不気味に思えてしまう少女……そう、この少女こそがこの物語の主人公モモです。

「人の話を聞ける」という誰でも出来ることがモモにはできます。モモにある男性が話をしているとします。すると、男性は突然良い事を思いつくのです。また、ある2人が喧嘩をしているとします。その2人の話をモモがずっと聞いていると、その2人はいつの間にか仲直りしていたり、歌を忘れたカナリアの声を聞き続けたことで歌を取り戻したりと**モモには何か不思議な力**があります。村人たちはモモが近所の廃墟に住んだことをとても嬉しく思い、平穏な日々を過ごしていました。

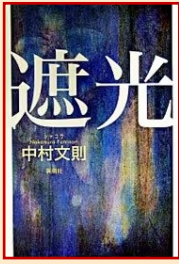
しかし、ある日突然、**時間どろぼうという謎の男たち**が人々の時間を奪っていき、人は生きている全ての時間を無駄だと感じるようになっていきました。モモは大切な友達を救うべく時間どろぼうと戦っていきます。時間の重みや大切さについて学べる本です。



人生の中でとても大切な「時間」。目に見えないけれど、生きていく上でとても大切になってくる「時間」。この本を読んで今一度、時間の使い方を振り返ってみてはどうでしょう。

第10回ビブリオバトル
紹介本

『遮光』（中村 文則//著・新潮社）
新田高等学校1年/山之内 良太 さん紹介



中村文則さんの作品は、建前はきれいだけど裏表がある二重人格のような主人公が多いと思います。そこが中村さんの作品の好きなところですよ。

『遮光』の主人公は、恋人を事故で亡くして、喪失感と行き場のない怒りに苦しんでいます。もともと虚言癖のようなものを持っている彼ですが、悲しみに抵抗するように、**恋人は生きていると嘘をつき続けます**。ここまでなら、僕にも気持ちはわかります。大切な人が亡くなったら、僕もそれをしばらくは受け入れられないかもしれません。しかし、主人公は衝撃的な行動に出ます。**ここまでくるともう狂気**としか言いようがありません。さらに**ラストは一段と衝撃的**です。彼がどんな行動に出たのか、最後はどんな結末になるのか。主人公の複雑な心境を味わいながら読んでみてください。

第10回ビブリオバトル
紹介本

『贖罪の奏鳴曲（ソナタ）』（中山 七里//著・講談社）
松山学院高等学校1年/三宅 唯生 さん紹介



中山七里(なかやま しちり)先生の人気シリーズ「御子柴シリーズ」の第1作！

主人公であり弁護士の御子柴礼二(みこしば れいじ)を中心としたリーガルサスペンス。

果たして依頼人は無罪なのか、それとも実際に罪を犯してしまったのか…。さらに**主人公御子柴にも過去に犯罪歴があり…？** 読む手が止まらない事間違いなしの**どんでん返しミステリー**！

ぜひ、中央図書館で読んでみて下さい！

第10回ビブリオバトル
紹介本

『君の顔では泣けない』（君嶋 彼方//著・KADOKAWA）
愛媛県立松山北高等学校 中島分校2年/菅 友里愛 さん紹介



この度は『君の顔では泣けない』を手にとってくださりありがとうございます！ビブリオバトルでも紹介しましたが、この本の魅力の一つは、**入れ替わりを切り口にして自分の存在に対する違和感や人生に対する生きづらさ**を鮮明に書いているところです。“生きづらさ”は現代を生きる私たちでも感じる人が多いものです。なので、この本を読めばきっと共感間違いなしです！

ネタバレになりますが、**私の好きなキャラクターは**、同級生・水村の体と入れ替わってしまった**坂平陸の弟**です。坂平の弟は、最初はスポーツ少年だったのが、数年顔を見ない内にアンニュイな雰囲気をまとうようになります。そのアンニュイで、でも根本の部分が変わらない感じが私の推しポイントです。**著者の君嶋彼方先生もこのキャラクターが一押し**だそうです！ぜひ読んでみてください！！

第10回ビブリオバトル
紹介本

『心心（シンシン）：東京の空・上海の月』（石田 衣良//著・KADOKAWA）
愛媛県立松山西中等教育学校3年/坂井 希帆 さん紹介



この本の魅力は、何といても個性豊かなキャラクターと、青春だけじゃない、様々な要素によって構成された、**ページをめくる手が止まらないストーリー**です！

東京と上海、2つの都市を舞台に繰り広げられる壮大な物語、その中にあるリアルな日常の描写には驚くこと間違いなしです。

大人にも学生にも読んでほしい本です。

ビブバト本リレー → 次はこれを読もう！

今回のビブリオバトルで取り上げられた本、いかがでしたか？ もし気になる本があったら、ぜひ手にとって読んでみてください。その後、もし、同じ作家の本が読みたくなったり、似たジャンルの本で何があるのかな？と思ったりしたら、今からご紹介する本たちをどうぞ！ 本→本へ、ビブバト本から始まる本のリレーが始まります！

『モモ』が
気になる！



『はてしない物語』(ミハエル・エンデ//著・岩波書店) 映画化もされたエンデのもう一つの代表作。10歳



のバスチアンは、ある日、読んでいた本の中に呼び込まれてしまう。召喚された先は、〈虚無〉によって滅亡寸前のファンタジーエン国だった…。文庫もあるけど、読むなら絶対、単行本で！なぜなら…



『未だ青い僕たちは』が気になる！

『池袋ウエストゲートパーク』(石田衣良//著・文藝春秋) 著者最大の代表作。シリーズは現在19巻まで刊行中。『池袋のトラブルシューター』と呼ばれるマコトが個性的な仲間とともに、数々のトラブルに立ち向かう物語。ドラマ化・アニメ化もされました。また「こち亀」とのコラボ小説も話題に。



『心心』が
気になる！



『僕が恋した、一瞬をきらめく君に』(音はつき//著・スターツ出版) 同じ作者の2作目。夢を諦め孤独に生きていた樹の慰めはギターを弾くことだけ。そのことを同級生の咲果に知られてしまった彼は、二人で曲を作ることに…から始まる青春物語。うーん！アオハルだね！



『贖罪の奏鳴曲』が気になる！



『御子柴礼司シリーズ1～6』(中山七里//著・講談社)

多額の報酬を要求するかわりに、必ず被告に有利な条件を勝ち取る悪辣弁護士・御子柴礼司の物語。リーガルサスペンスものですが、彼自身の過去にまつわる話も多く、全編を通してダークな雰囲気。作者は、他にも色々なシリーズものを書いています。デビュー作でもあった『岬陽介シリーズ』第6作『合唱』に、御子柴ほか、各シリーズの登場人物が登場して話題になりました。



『遮光』が
気になる！

『夜がうたた寝してる間に』(君嶋 彼方//著・KADOKAWA) 入れ替わりの次は、時間を止める能力者のお話です。どんな味付けになっているかは、読んでからのお楽しみ。

また「入れ替わり」ものとしては森博嗣『墜ちていく僕たち』や五十嵐貴久『パパとムスメの7日間』などがあります。



『君の顔では泣けない』が気になる！



『悪と仮面のルール』(中村 文則//著・新潮社) この人の作品はどれも「決ってくる」作品ばかりだと思います。すべておすすめですよ！と言いたいところですが、中村文則初級編として映画化もされた本書はどうでしょう。その後、『カード師』『銃』等で徐々に慣らしてから『R帝国』などの深淵に行ってみては！

